

【演習 1 事例の概要】

氏名：神奈川 太郎 氏 (20歳男性) / 障害名：脳性麻痺による四肢麻痺
 身体障害者手帳 1 級 / 障害支援区分 5 / A市で両親・姉と 4 人暮らし

<生活状況・環境等概略>

食 事：スプーンで自立。入浴：洗体は一部介助。浴槽への出入りは介助。

排 泄：大小とも洋式使用。介助が必要(便座への移乗、下衣の上げ下げと後始末)。

更 衣：上下とも一部介助。

移 動：自宅内は手足移動(いざり這い)。自宅外は近隣ならば電動車いす使用にて自立。遠距離は家族の運転する車を利用。

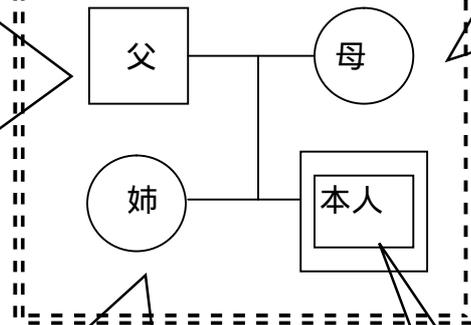
住宅改造：既に改造は終わっており玄関にはスロープ設置。居室は手足移動で生活できる環境。浴室は介助でシャワー浴をベースにした改造。洋式トイレも L 字バーが設置済み。

金銭管理：小遣い程度なら自分で可能。

趣 味：TV での野球観戦。

《ジェノグラム》

(家族関係は良好)



- ・ 56 歳。30 年会社に勤務。定年間近。普段は仕事で忙しいが、休みの日は一緒に車で買い物やドライブへ行くなど本人のことを気にかけている。
- ・ 一人暮らしについては「親はいつまでも居ない。試したらいい。」と話す。

- ・ 52 歳。専業主婦。主な介護者。
- ・ 本人の自立に対し、理解は示すが、「そんなに急がなくても今の生活を続けてはどうか？何か見えないものにもぎ取られていきそう。」と話す。

- ・ 23 歳。会社員。もうすぐ都内で一人暮らしの予定。
- ・ 本人に対して協力的。
- ・ 本人の自立に対しては、「甘えん坊だから、本当にできるのか、心配。」と話す。

- ・ 特別支援学校高等部を卒業。卒業後はずっと市内の「でんでんむし」(就労継続 B)に通っている。(週 5 日)
- ・ 「将来は一人暮らしをしたい。もっと自分でできることを増やしたい。働きたい。」と希望。
- ・ 「いつまでも親を頼ることはできないので、介助者を探さなくてはいけないと思うのだが、どうやって見つければよいか？」との相談あり。

<補足>

- ・ 相談は「でんでんむし」(就労継続 B)の職員にしている。
- ・ 姉が自立するので、自分も一人暮らしに憧れている。家族には希望を伝え始めたばかりの段階。
- ・ 「でんでんむし」(就労継続 B)は、主として知的障害の方が多く、本人と話が合う仲間がない。近隣には他に通うところも無いので、しかたなく通っている。

一次アセスメント票

受付 No.○ 名前：神奈川 太郎(20歳) 訪問年月日：平成26年12月○日 訪問者所属 B 障害者支援センター サービス管理責任者 氏名 鈴木 優子		訪問目的(事前に具体的に記入) - 本人の意向確認 - 支援に必要な各種生活状況の確認			
障害者本人の概要	生活歴	・平成 年 月、個人病院で出生。自治体実施の6ヶ月検診にて首の座り遅さを認め、大学病院を受診し、脳性麻痺と診断される。療育支援(巡回リハ等)を中等部卒業まで受ける。 ・小学校は地元の普通校。中等部から特別支援学校に通う。高等部卒業後、自宅近くにある「でんでんむし」(就労継続B)に電動車いすを利用して週5日単独で通所している。 ・現在まで家族と同居して在宅での生活を送っている。			
	病歴・障害歴	年月	事項	年月	事項
		H . 月	大学病院にて脳性麻痺と診断		
		H . 月	身障手帳の交付(1級) 大病もなく現在に至る。		
	医療機関利用状況[現在の受診状況, 受診科目, 頻度, 主治医, どの疾患での受診] ・定期通院はなし。体調不良時などは 大学病院(内科、整形外科)へ受診している。				
	医療保険 被保険者(本人・ <input type="checkbox"/> 家族) 国民健康保険 <input type="checkbox"/> 健康保険 記号 番号 障害者医療: 更生医療 育成医療 <input type="checkbox"/> その他(重度障害者医療費助成)				
	現在使用している福祉用具: 電動車いす				
生活状況[普通の1日の流れ] 週間生活表が必要な場合は別紙に記入 本人 起床 通所 帰宅 夕食 就寝 					
介助者 母が生活の主要動作に関する介助を担っている 通所先は「でんでんむし」(就労継続B)(自宅近隣) 通所しない日は、電動車いすで散歩をしたり、TVを観たりして過ごす。					
[その他の1日の生活の流れ] いくつかの1日の生活の流れがあれば、別紙に記入 本人 					
介助者					

利用者の状況

1 生活基盤に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
経済環境	有り	家族が管理	有り	障害基礎年金を受給しているが、自分で管理するには支援必要。	
住環境	無し	家族と同居	有り	自立生活に向けた住居探し、生活動作及び電動車いす利用に対応する住宅の改修が必要。	

2 健康に関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
服薬管理	有り	服薬無し	有り	現在は服薬ないが、処方されたら支援が必要。	
食事管理	無し	無し	無し		
病気への留意	有り	家族が管理	無し	家族が居ないときは誰かのチェックが必要。	
体力	無し	無し	無し	今後は筋力低下、四肢拘縮等の予防が必要か？	

3 日常生活に関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
寝返り	無し	無し	無し		
起き上がり	有り	全介助	有り	動作全般に介助を必要とする。	
衣服着脱 (上衣・ズボン等)	有り	一部介助	有り	上着の袖通し、下着は上げ下げとチャック・ボタンの介助を必要とする。	
整容行為	無し	無し	無し	車いす対応の洗面所であれば可能。	
食事行為	無し	無し	無し	スプーンであれば可能。	
排泄行為 (排尿) (排便)	有り	全介助	有り	排尿・便とも便座への移乗とズボンパンツの上げ下げ、清拭介助。	
入浴行為	有り	一部介助	有り	洗髪は可能。洗体は背中・でん部・足先の介助要。浴槽への出入りに介助を要するため、家ではシャワー浴。	
ベッドへの移乗 (床・車いす等)	有り	全介助	有り	両脇を抱えて移乗介助する。	
屋内移動	無し	無し	無し	手足移動(いざり這い)。	
調理(後かたづけを含む)	有り	全介助	有り	母が行っている。調理は未経験で方法や手順を把握していない。	

洗濯	有り	全介助	有り	母親が行っているため、動作は未経験。
掃除	有り	全介助	有り	同上
整理・整頓	有り	全介助	有り	同上
ベッド メイキング	有り	全介助	有り	同上
書類の整理	有り	全介助	有り	ある程度はできるが、通常は母が行っている。
買い物	有り	一部介助	有り	店員などに依頼して買い物はできる。
衣類の補修	有り	全介助	有り	母が行っている。
育児				子供はいない。

4 コミュニケーション・スキルに関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
意思表示の 手段	無し	無し	無し	言葉で意思表示できる。	
意思伝達の 程度	無し	無し	無し	本人からの意思表示を他者が十分に聞き取ることができる。	
他者からの 意思伝達の 理解	有り	一部介助	有り	日常生活上の内容であれば理解できる。本人が未経験な事項、契約事項などは支援が必要。	
電話の使用	無し	無し	無し	設定により携帯電話は使用できる。	
FAXの使用	有り	全介助	有り	行った事がない。	
パソコン	有り	全介助	有り	まだ使用した事がない。使用する場合はパソコンの環境設定も必要。	
筆記	有り	一部介助	有り	文字を書くことはできるが、書類への細かい枠内等への記載は難しい。	

5 社会生活技能に関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
対人関係	無し	無し	無し	とても親和的。	
屋外活動 (近距離移動) (遠距離移動)	近距離：無し 遠距離：有り	EW/C EW/C	場面 によ り	(近) 電動車いすで移動ができる。 (遠) 一般交通機関の利用経験はあるが、一人で利用したことはない。	
金銭管理	有り	ほぼ介 助	有り	小遣い程度であればできる。通帳管理などは家族が行っている。	
危機管理 (戸締まり) (連絡)	有り	全介助	有り	戸締まりは支援が必要。自立生活した場合の連絡手段の検討が必要。	

6 社会参加に関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
レクリエーション等	有り	でんでんむし	有り		「でんでんむし」(就労継続B)主催の行事に参加している。
趣味	無し	無し	有り		TVで野球観戦が好き。ジャイアンツの大ファン。実際の試合を観たことは無く、東京ドームへ行きたい。
旅行	有り	全介助	有り		家族以外との旅行は経験したことがない。父がたまにドライブに連れて行く。
当事者団体の活動	有り	でんでんむし	有り		「でんでんむし」(就労継続B)で行われる活動に時折参加する程度。社会的体験や自立生活の話を聞いたり、実際に体験することを希望している。
各種社会的活動	有り	でんでんむし	有り	同上	

7 教育・就労に関する領域

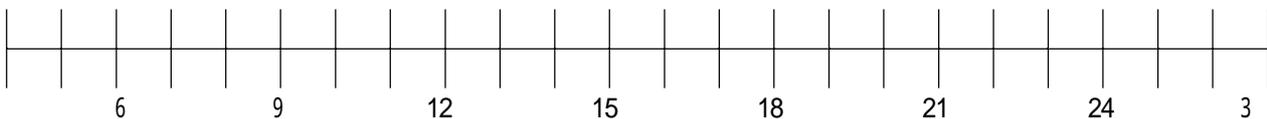
項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
教育	無し	特別支援 学校高等 部卒	有り		社会的体験や自立生活の話を聞いたり、実際に体験することを希望している。
就労	有り	就労継続 B	有り		「でんでんむし」(就労継続B)へは週に5日通えている。いずれ就労したいと希望。

8 家族支援に関する領域

項目	チェックの内容			本人の能力と制限 環境の能力と制限	気づいたこと 気になること
	援助の有無	実態	希望		
家族	有り	協力的	有り		自立生活には家族の理解が必要と考えている。

希望する1日の流れ

本人 未定



介護者

家族の要望・希望するくらし

父：「一人暮らしはやってみなければわからない。試したらいい。親はいつまでも生きていないので本人が選ぶしかない。本人がいろいろな人の力を借りながら生きていく必要がある」と話す。

母：「そんなに急がなくても今の生活を続けてはどうか？何か見えないものにもぎ取られていきそう」と話す。

姉：「自立に対しては）甘えん坊だから、無理じゃないか、心配」と話す。

本人の要望・希望する暮らし <ul style="list-style-type: none"> ・ 家を出て一人暮らしをしたい。 ・ 親を頼ることはいつまでも出来ないので、介助者を探さなくてはいけないと思うのだが、どうしたら見つかるか？ 	
関係職種からの情報 A市内の「でんでんむし」(就労継続B)より： <ul style="list-style-type: none"> ・ 週に5日休まず通ってきている。 ・ 軽作業を担当。 ・ 人間関係は良好。 ・ 一緒に作業をする仲間は知的障害の方が多く、本人とは話が合わない。 ・ 最近になって一人暮らしについての相談が増えてきた。 	【家屋の見取り図】 <input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> その他 トイレ、浴室位置や形状、玄関、道路までのアクセスや段差等の記入 省略 一戸建てを想定。 自宅内の改修は 玄関スロープ設置。 居室内は手足移動(いざり這い)で移動が出来る様に改造済み。 トイレは洋式でL字バー設置済み。 風呂は介助でシャワー浴をベースにした改造。
対応者所見 (注目すべき点, 気になる点を含む) <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期間両親のもとで生活され、社会的に未経験な面が多く、自立生活に向けた目的達成の為には周囲の適切な情報提供や支援のもと「体験の機会」を得ることが必要。その体験から得た情報、知識などをもとに本人が自立生活をする為には、何が必要か、どうしていけば良いかを、本人自身が具体的に考えられるよう支援を行う必要がある。 ・ 一人暮らしの相談は「でんでんむし」(就労継続B)職員に行っており、精神的な支えは得られている。 ・ 本人に対して、家族は協力的であり関係性は良好。自立生活を目指すのはすばらしいが、母も本人も、離れられないのではと、姉は心配している。 ・ A相談支援事業所の相談支援専門員・田中氏とも親和的な関係が築けている様子。 	

サービス等利用計画

利用者氏名(児童氏名)	神奈川 太郎	障害支援区分	区分5	相談支援事業者名	A相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	田中
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			
計画作成日	平成26年12月 日	モニタリング期間(開始年月)	平成27年1月～3月	利用者同意署名欄	
利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	本人)一人暮らしをしたい。 ずっと親を頼ることは出来ないので、介助者を探したい。 父) 親はいつまでもいないので、一人暮らしをしたいのなら試せばよい。 母) 自立したい気持ちはわかるが急がなくてもよい。				
総合的な援助の方針	ご本人の一人暮らしをしたいという希望を尊重し、一人暮らしに向けて、必要な準備と一緒に考えるとともに、サービス利用に関する支援を行う。				
長期目標	障害福祉サービスを活用した一人暮らしを目指す。				
短期目標	できることと、苦手なことを整理しながら、自分でできることを増やすとともに、生活経験を広げていく。				

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	将来は一人暮らしをしたい。	できることと苦手なことを整理する。将来的には本人に合った住む場所を探す。	1年	自立訓練(機能訓練)23日	B 障害者支援センター	・訓練に取り組む ・苦手なことはどうすればよいか一つずつ考える。	1か月	
2	自分でできることを増やしたい。	自分でできることを見つける。				・できることは自分で行う。	3か月	
3	介助者を探したい。	支援が必要な部分を確認し、必要に応じてサービスを利用する。	1年	相談支援(随時) 体験利用(ケアホーム利用)	A 相談支援事業所	・自分のことを知る。 ・障害福祉サービスについて、相談支援専門員と相談しながら自分で決める。	1年	
4	働きたい。	本人に合った働き方と働く場所を考える。	1年	自立訓練(機能訓練)23日 相談支援	B 障害者支援センター A 相談支援事業所	・生活支援員、相談支援専門員と相談しながら、自分にあった働き方を決める。	1年	
5	話が合う仲間がない。	人間関係を広げる。	1年	自立訓練(機能訓練)23日	B 障害者支援センター	・センターの活動に参加する。	1年	
6								

サービス等利用計画・障害児支援利用計画【週間計画表】

利用者氏名(児童氏名)	神奈川 太郎	障害支援区分	区分5	相談支援事業者名	A相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	田中
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月	平成27年1月0日
--------	-----------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00								・B障害者支援センター(機能訓練) ・週末は時折、父親とドライブに行く 週単位以外のサービス ・相談支援 A相談支援事業所
8:00	起床・更衣・洗面・朝食等							
10:00	B障害者センター個別支援計画に基づく自立訓練(機能訓練)							
12:00	昼食							
14:00	B障害者センター個別支援計画に基づく自立訓練(機能訓練)							
16:00								
18:00								
20:00	夕食							
22:00	入浴・就寝準備							
0:00	就床							
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	・社会生活支援や身体介助支援、日中活動などの障害福祉サービスを利用しながら、一人暮らしが送れる。
----------------------	--

課題の整理表（記入例）

No	意向等ニーズの把握	初期状態の評価 (利用者の状況・環境の状況)	支援者の気になること・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題	二次アセスメント の依頼先
1	身の回りの動作を自立したい。 介助を受けずに出来る動作を増やしたい。	まだ、基礎的な体力がついておらず、様々な動作の習熟が不十分な状態。 身体介助:食事摂取と洗面動作の一部は自力で可能、その他は全て介護の状況。 受傷後の社会生活について未経験。 住宅改修は未実施。	年齢や身体的予後予測から考えると、ADLの自立の可能性は高いと思われる。 基本的な身辺動作から開始し、車いすベッド間の移乗、排便・入浴動作等へ進める必要がある。 住宅改修について、経済的な面では問題ないが、訓練進捗状況をみてから設計を行う必要がある。	身体機能の向上を図る 身辺動作の自立を図る 自助具、補装具の作成 IADL(外出時の交通機関の利用や買い物、家事など)動作の拡大を目指す 本人の身体状況に適した住宅改修を実施する	理学療法士 作業療法士 生活支援員

< 記入方法 >

- ・ 利用者の初期状態や基本的ニーズの把握から、課題を整理します。
- ・ 課題は複合的な場合も多いため、整理にあたっては、優先順位を設定します。
- ・ 二次アセスメントについて

二次アセスメントとは専門職によるアセスメントで、一次アセスメントを行った者（事例の場合はB障害者支援センター・サービス管理責任者である鈴木さん）が、各専門職に依頼して行います。

- ・ この記入例は、今回演習を行う事例「神奈川太郎さん」の課題ではありません。
- ・ 1枚の用紙で足りない場合は、用紙を追加して記入してください。